

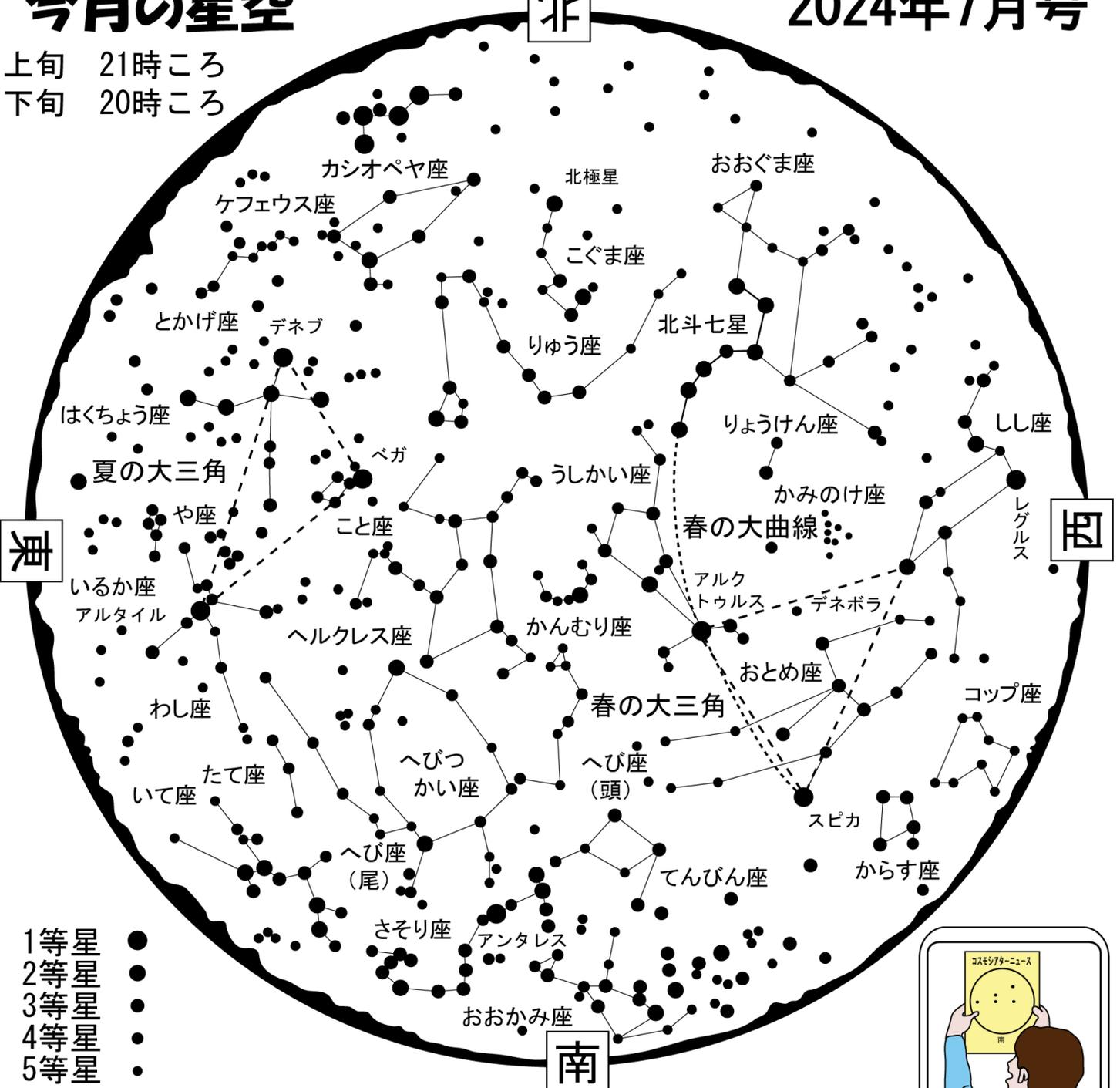
コスモシアターニュース

今月の星空

北

2024年7月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●
- 2等星 ●●
- 3等星 ●●●
- 4等星 ●●●●
- 5等星 ●●●●●

惑星の動き

水星：夕方の西のたいへん低い空に見えます。明るさは、0~1等星です。7日に月と並びます。
 金星：見かけ上太陽に近く、肉眼で見つけるのは難しいでしょう。
 火星：明け方前、東の空に見えます。明るさは1等星です。2日と31日に、月と並んで見えます。
 木星：明け方前、東の空に見えます。明るさは-2等星です。3日と31日に、月と並んで見えます。
 土星：深夜の東から南東の空に見えます。明るさは1等星です。24日の深夜、月と並んで見えます。

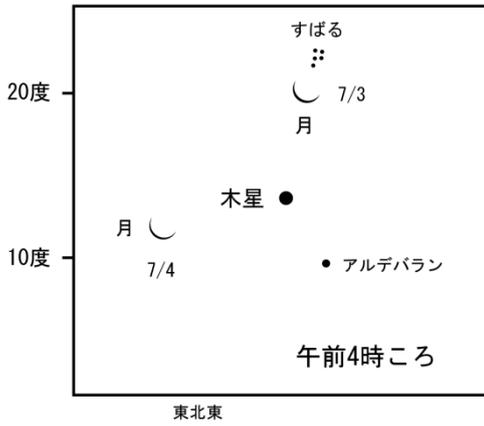


自分の向いている方向を下にして、見てください

今月の月の満ち欠け

新月：6日(土) 上弦：14日(日) 満月：21日(日) 下弦：28日(日)

3日(水)～4日(木)、明け方東の空で、月と木星が並んで輝く



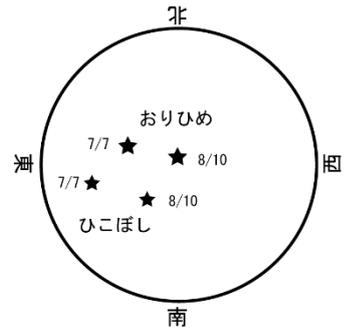
3日(水)の午前4時ころ、東寄りの空に、細い月が見えています。この月の少し下側を見ると、明るい星が見つかるでしょう。この星が木星です。木星は大変明るいので、すぐに分かります。

その後、翌日には、月が木星の左側へ移動し、接近は続きます。ただし、5日(金)には、月が離れていきます。

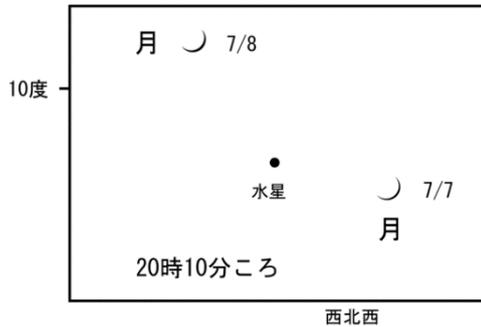
なお、3日は、月のすぐ上に、星の集まりすばるがあります。また、木星の右下には、おうし座の1等星・アルデバランも輝いています。このころは、日の出が午前5時ころになります。午前4時をすぎると、朝焼けが始まりますので、午前4時ころまでにご覧ください。また、2日(火)の朝は、月が木星から少し離れたところにあり、火星と並んで見えるでしょう。

7日(日)、七夕

7日(日)は、七夕です。七夕は、おりひめ星とひこぼしが、一年で一度会える日だ、という昔の話があります。この七夕の話ができたころは、今使っている暦(こよみ)ではなく、月の満ち欠けを基準にした暦・太陰暦(たいいんれき)でした。太陰暦は、旧暦(きゅうれき)とも言われます。今年の旧暦の七夕は、8月10日(土)です。今の暦は、太陽の動きをもとにした太陽暦(たいようれき)と呼ばれるものです。この暦で行くと、7月7日はまだ梅雨の期間で、なかなか星を見ることすらできません。しかし、旧暦の七夕は、太陽暦の8月頃が多く、このころは夏本番でいい天気続きます。また、おりひめ星・ひこぼしともに空高く昇り、見やすくなっています。右の図は、21時ころの七夕の星の位置です。7月7日は、ひこぼしが東の空低い所にあります。しかし、8月10日には、南の空高い所に移動しているのが分かるでしょう。おりひめは、「ベガ」と呼ばれ、こと座に輝く1等星です。ひこぼしは、「アルタイル」と呼ばれ、わし座の1等星になります。



7日(日)、夕方西の空で、月と水星が並んで輝く

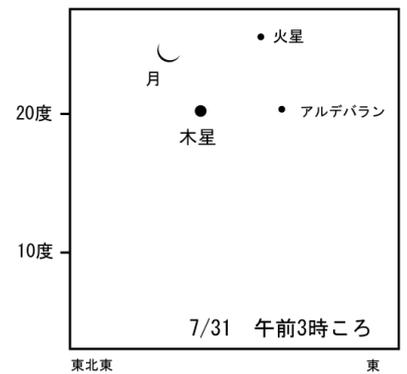


7日(日)、七夕の日、空が暗くなり始めるころ、西の空で、月と水星が並んで輝きます。ただし、高さが大変低く、夕焼けがまだ明るいので、双眼鏡などを使って探すといいでしょう。水星の場所は、月の左側になります。

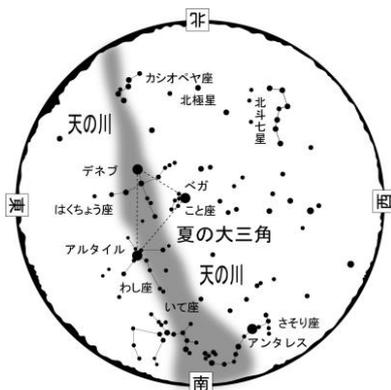
そして、8日(月)は月の高さが高くなります。この日の月は、肉眼でも簡単に見えます。ただし、水星の高度は同じように低いので、肉眼では見つけにくいでしょう。なお、水星の明るさは、0等星で、1等星より明るく、空が暗いと、肉眼でも簡単に見える明るさです。高度が低いので、見晴らしのいい所でご覧ください。

31日(水)、未明の空で、月と木星、火星が並んで輝く

31日(水)の午前3時ころ、東寄りの空に、細い月が見えています。この月の少し右下側を見ると、明るい星が見つかるでしょう。この星が木星です。今月初めは、月と木星の接近時に、近くに見えるのはアルデバランだけでしたが、今回は火星も加わりにぎやかになります。なお、見えるのは午前2時から午前4時ころになります。時間が明け方前ということで、見るのは難しいですが、天気にも恵まれれば、美しい眺めとなります。ちなみに、星の明るさは、木星が極端に明るく、火星とアルデバランは、普通の明るい星くらいです。また、火星とアルデバランはオレンジ入りに輝き、特徴的な色をしています。



天の川を見よう



7月～8月は天の川が最も見やすい時期です。天の川は、雲のようにぼんやりし、街の明かりがあると見えなくなってしまいます。また、月が輝いている時も見えません。今年は、7月末から8月上旬に月明りがなく、いい条件になります。見やすい時間は、21時以降で、真夜中ころまで続きます。人間の目は暗い所に行くと、すぐには暗闇に慣れません。ですから、明るい部屋の中から急に外に出ても、天の川が見えないのです。最低でも5分くらいは、夜空を眺めて下さい。

右の図は、7月下旬の22時ころの様子です。雲のようにぼんやりとしたものが天の川です。実際の天の川は、南の空にある部分が一番明るく見えます。ちょうどさそり座のしっぽ方向です。そして、天の川をさかのぼって頭上を見ると、夏の三角形があります。